

ベトナムの人材教育と海外就労状況

ハノイデスク 中川 良一

ベトナム統計総局によると、2023年4月、ベトナムの人口は1億人に達しました。

これにより世界で15位、アジア8位、東南アジアではインドネシア、フィリピンに次いで第3位となりました。

ベトナムにおける労働者の就労分野別構成も年々変化しており、専門的な技術や知識を有する労働者も増加しています。2000年における工業・建設業・サービス業への就労率は37.7%でしたが、2021年には70.9%に達しています。

ベトナムでは急激な人口増加を抑制し貧困からの脱却を計るため、過去20年間にわたり二人っ子政策を進め、毎年出生率が低下しています。現在では貧困の課題も改善され、育児時間や所得に余裕が生まれて、教育の質も大きく向上しています。

ベトナムの教育プログラム

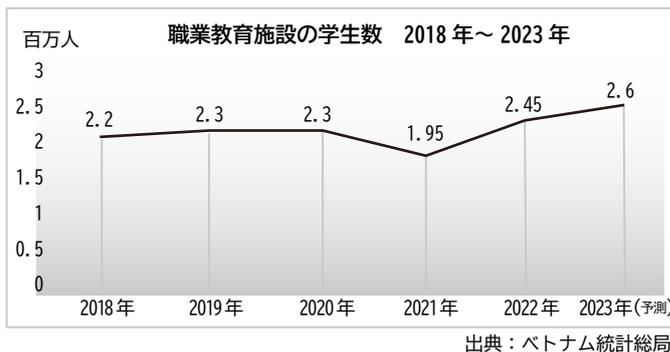
ベトナム統計総局によると、2022～2023年度の在学者数は、保育所・幼稚園が477万人、小学校から高校までが1,597万人（小学校892万人、中学校528万人、高校177万人）となっています。

1級 幼児教育	2級 普通教育	3級 職業教育	4級 大学・大学院教育
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所: 3か月～3歳の乳幼児 ・幼稚園: 満3歳～小学校就学前の幼児 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校: 5年間 ・中学校: 4年間 ・高校: 3年間 	<ul style="list-style-type: none"> ・初級コース: 15歳以上の者が対象で、簡単業務スキルを学ぶ ・中級コース: 中学校卒者が履修 ・職業短期大学コース: 中級修了者または高校卒者が履修 	<ul style="list-style-type: none"> ・学士(3～5年): 高校卒、職業教育中級コース終了または高校の必須科目修了者ならびに職業短期大学コース修了者 ・修士(1～2年): 大学卒 ・博士(3～4年): 修士課程修了者または要件を満たす大学卒

ベトナムの教育制度

2023年5月現在、ベトナム全国において職業教育施設が1,888カ所設置され、その63.8%が公立となっています。このうち職業短期大学コースが397カ所、職業中級コースが433カ所、職業訓練センターが1,058カ所です。2022年

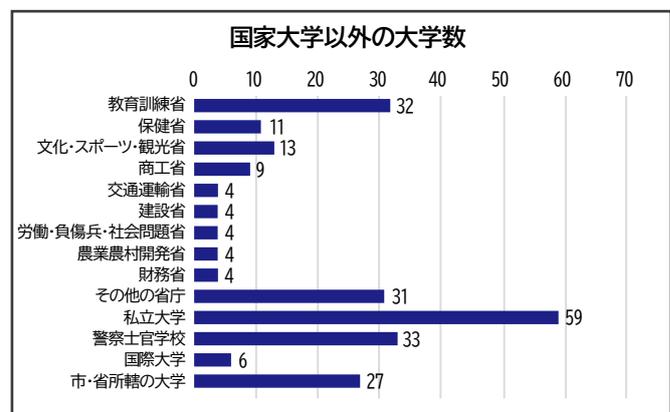
の職業教育施設の受講者数は245万人となり、2018年以降で最多となりました。このうち短期大学レベルは26.3万人、職業中級レベルは31.2万人、職業初級等他のレベル受講者は190万人でした。



ベトナムの大学

ベトナムには250の大学があり(※)、このうち首相直属の国家大学が2カ所(ベトナム国家大学ハノイ校及びホーチミン市校)、教育訓練省設置の国家大学が3カ所(フエ大学、ダナン大学、タイグエン大学)となっています。そして、省庁並びに地方自治体が所管する大学は241カ所となります。

(※) 少数民族用大学予備学校 4校含む



Times Higher Educationによるアジア大学ランキング2023は、31の国・地域の669校について、「教育」「研究」「引用論文」「産業界からの資金」「国際性」の5分野でランク付けを行っています。ベトナムからは、トンデュックタン

大学(86位)、デュイタン大学(106位)、ベトナム国家大学ハノイ校(351位~400位)、ハノイ工科大学(501位~600位)、ベトナム国家大学ホーチミン市校(501位~600位)、そしてフエ大学(601+位)の6大学がランクインしました。日本は117校がランク付けされており、トップ3は東京大学(8位)、京都大学(18位)、東北大学(34位)です。

教育訓練省によると、大学の受入可能定員数は170万人。近年の平均年間卒業生数は24万人である一方、2022年度新生は52万人を超え、在籍者数は増加しています。また専門分野別上位は、経営管理学科(24.5%)、コンピューター・情報テクノロジー学科(11.8%)、技術テクノロジー学科(9.2%)、人文科学(8.7%)、健康学科(6.4%)です。

近年では高校卒業後、海外の大学へ留学する生徒が増加しています。卒業生の5%が留学し、うち90%は私費留学となっています。2023年7月時点における海外のベトナム人留学生数は13万人強となっています。

主要な国におけるベトナム人の留学生数

国	ベトナム留学生	備考
日本	62,233人 (2021年5月)	在日外国人留学生国別2位
アメリカ	20,713人 (2021年)	在アメリカ外国人留学生国別5位
韓国	70,212人 (2023年1月)	在韩国外国人留学生国別1位
オーストラリア	21,024人 (2023年4月)	在オーストラリア外国人留学生国別5位

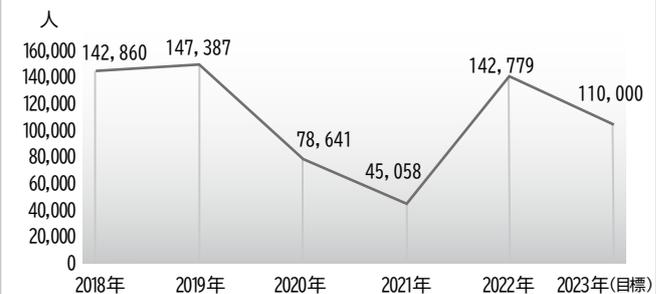
出典：教育訓練省

ベトナム人の海外就労状況と日本

労働・傷病兵・社会問題省付属の海外労働管理局によると、2023年上半期、ベトナムの海外派遣労働者数は72,294人となり、年間目標の6割を越えました(2023年：11万人の海外派遣目標)。受入国上位は日本(34,508人)、台湾(31,538人)、韓国(1,608人)、中国(902人)、シンガポール(727人)、ハンガリー(712人)、

ルーマニア(469人)となっています。

ベトナムの海外労働者人口(2018年~2023年)



出典：労働省(ハノイデスクにて集計・グラフ化)

主な派遣先国におけるベトナム人海外就労者人口

	台湾	韓国	日本
期間	1995年~2022年	1992年~2022年	1992年~2022年
人口	230,000人	120,000人	350,000人
主な業務	(1)メイド (2)介護 (3)漁船員	(1)高度技術 (2)農業・林業・漁業 (3)漁船員	(1)実習生 (2)特定技能 (3)看護・介護

受入国トップの日本について、以前は日本での生活費を除き、月に852USD~1,278USDの貯蓄が出来ましたが、近年は円安と物価上昇により、貯蓄額は682USDまで減少しているそうです。

主な派遣先国におけるベトナム人給与

国	月収(千万ドン/月)
日本	30~37(約1,278USD~1,576USD)
韓国	37.73(約1,608USD)
台湾	21(約895USD)
ポーランド	30~40(約1,278USD~2,491USD)
イタリア	24.5~50(約1,044USD~2,130USD)
デンマーク	60(約2,556USD)
ドイツ	50~60(約2,130USD~2,556USD)
ハンガリー	15~18(約639USD~767USD)

出典：複数国向け派遣機関のインタビュー資料等のまとめによる

現在、ベトナム人労働者の派遣先人気国は、韓国、米国、ドイツ、ポーランドなどとなっています。

日本は少子高齢化による労働力不足という大きな課題に直面しており、今後、技能実習制度が改正され、特定技能制度に移行することにより、魅力ある就労国として再度人気となることを期待します。

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界11カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】